

2018年9月期 通期決算説明会 質疑応答の要約

■ 2019年度9月期の業績見通しについて

Q1

2019年度の業績予想におけるセグメント別内訳について

A1

インターネット広告事業は市場成長率を上回る業績を見込んでいる。

ゲーム事業は「ドラガリアロスト」の初速が良いが、既存タイトルのボラティリティもあるため、セグメント別の内訳は非開示とさせていただく。

「AbemaTV」等の先行投資事業に関しては、営業損失 200 億円を見込んでいる。

■ 2018年度9月期の業績について

Q2

4Q 営業利益が QonQ 約 47%減益をしているが、

2018年度の営業利益予想に対しての上振れ分を、イレギュラーに使ったものはあったのか？

A2

数字を合わせにしている訳ではないが、ゲーム事業の一部好調な部署に賞与を出したこと、またゲーム事業の広告宣伝費の増加等で、総額 20 億円強を使った。

■ 「AbemaTV」について

Q3

2019年度、「AbemaTV」広告売上高の見込みについて

A3

決算説明会資料 P33 に記載のとおり、増収を見込んでいる。

また 10 月 23 日に発表した、(株)電通、(株)博報堂 D Y メディアパートナーズとの資本業務提携による好影響も期待している。

Q4

「AbemaTV」の売上高については、2019年度は2018年度比で倍増以上を予定しているのか？

A4

2019年度の「AbemaTV」売上高を開示はしていないが、倍増以上を目指している。

Q5

2019年度、「AbemaTV」の制作費の計画については？

A5

2018年度よりも増やしていく予定。

Q6

「AbemaTV」の現状の課題や今後の戦略について

A6

一番の懸念は既存事業（インターネット広告事業、ゲーム事業等）の失速によって、

「AbemaTV」への投資が継続できなくなることだったが、

「ドラガリアロスト」がヒットしたことで、その課題は回避できそう。

「AbemaTV」は、2018年度はレギュラー番組を強化し、WAUのベースアップに繋がっていたが、世間を大きく騒がせるような特番が出せていなかった。今後はそういったところも強化していきたい。

Q7

「AbemaTV」の広告と課金の売上高の構成は？

A7

「AbemaTV」の売上高の中で、広告3：課金1の割合だが、足元は機能拡充に伴い有料会員が増加している。

Q8

(株)電通、(株)博報堂DYメディアパートナーズとの資本業務提携によって、今後はどんな影響があるか？

A8

以前からインターネット広告事業では競合関係にあり、

今回の資本業務提携によって(株)電通、(株)博報堂DYメディアパートナーズの現場で、

「AbemaTV」の広告販売に関しての迷いを払拭できるのではと考えている。

また両社から「AbemaTV」へ1～2名出向予定のため、より連携が促進されることを期待している。

Q9

(株)電通、(株)博報堂D Yメディアパートナーズとの資本業務提携による、(株)テレビ朝日との関係性の変化は？

A9

(株)テレビ朝日とは事前確認をとりながら本件を進めており、両社との資本業務提携によって関係性が変わることはない。

※参考：増資後の株主構成) (株)サイバーエージェント55.2%、(株)テレビ朝日36.8%、
(株)電通5%、(株)博報堂D Yメディアパートナーズ3%

■ インターネット広告事業について

Q10

2019年度におけるインターネット広告事業の収益性の見通しについて

A10

3Qから4Qは将来のさらなる成長に向け、人員を積極採用してきたが、
今後は強化分野であるクリエイティブ分野の人材に絞って採用していく予定。
よって今後の収益性は改善していくと考えている。

Q11

4Qは連結対象外となった(株)サイバー・バズの影響があったと思うが、それを除いた成長率はどの程度か？

A11

(株)サイバー・バズは2018年5月より持分法適用会社に移行しており、2017年度4Qの売上高は5億円程度。
2018年度4Q比でその影響を勘案した増収率は12.1%。

■ その他

Q12

JリーグクラブFC町田ゼルビアの収益や投資などによる業績への影響は？

A12

今後はJ1ライセンス取得のため、練習場とクラブハウスの建設等が必要になってくるが、
2019年度の業績にほぼ影響はないと考えている。

以上